

8月5日(月)に令和6年度の第2回研修会が千代田区立麹町中学校で行われました。
日本女子大学 教職教育開発センター 教授の坂田仰氏から
「2024-学校の危機管理-学校教育の法化現象と養護教諭-」
という演題でご講演をいただきました。

坂田先生が携わった訴訟の判例の中で養護教諭が含まれる
ケースに共通することは

- ・養護教諭の標準職務(文部科学省:令和5年7月5日付け
5初健食第5号)をしっかり理解すること。これを外れると自己
責任を問われることがある。
- ・養護教諭の専門性が問われる判例もある。「最新のガイドライン」に則った対応を行い、医療機関に引き継ぐこと。医療の進歩に備え、養護教諭の専門性も高め、守備範囲の拡大を図る。
- ・健康観察に関して、養護教諭はその専門性を活かし、担任教諭にアドバイスしていく意識をもつべき。
- ・ひと手間かけ、保護者とこまめに連絡をとっていくことが大事である。

といったお話をいただきました。普段、法について考える機会もない毎日ですが、法の下に成り立っている公教育であり、価値観の多様化が進む現代、法に則って職務に従事することが自分自身を守ることにもつながることを学びました。たくさんのケースを分かりやすくご講演いただき、充実した研修会でした。

また、午後より令和6年度第3回研修会が行われました。

最初に、実践報告がありました。

大田区立大森第三小学校 主任養護教諭 島田 留美先生より令和4年から5年に取り組んだ研究発表「未来を創る学校健康教育～生涯にわたって健康を保持、増進できる資質・能力の育成～」に関する報告がありました。

どの学年でも学校医や医療機関、様々な企業との連携を取り、研究授業の準備を進めていきました。



- 1年生:「はははの秘密」(歯科学習)
- 2年生:「元気のひみつ わたしのうんち」(排便学習)
- 3年生:「からだ元気大作戦！」(睡眠学習)
- 4年生:「私たちのホネ骨元気大作戦！」(骨の学習)
- 5年生:「ココロ、これまでとこれから」(心の学習)
- 6年生:「元気な脳をこの手に」(脳の学習)

養護教諭である島田先生は研究発表を進めていく上で、大学教授の講話や保健所の方から学び専門性を高めた上で、研修会の企画の際に、養護教諭の立場から学級担任への助言や支援を行い、研究授業においても、指導者として携わったそうです。



東京都立小山台高等学校 主幹養護教諭 村上 文良先生からは「精神不調アセスメントツール RAMPS」についての報告がありました。

RAMPS は子どものいのちを守るため、援助希求を助け、自殺リスクや精神不調の見過ごしを防ぎ、早期発見・早期対応をするための IT ツールとなっています。現在、全国 164 校で導入されており、約 6 万人の子どもたちに活用されています。

科学的根拠に基づいた RAMPS の指標には

①身体不調②食事・睡眠③うつ病エピソード④パニック発作⑤自殺リスク⑥精神病様体験⑦学校起因問題⑧いじめ

があり、各質問への「回答時間」も記録・解析に利用しています。

RAMPS 導入のメリットとして

- ・チーム学校としての力の向上・・・RAMPS によるアセスメントを教職員間で共有
- ・言語化しにくい生徒の心の声を聞き取ることのできるツールの 1 つ

(例)他の生徒がいるときでも使用できる、声かけを待つ生徒への働きかけのきっかけ

- ・精神不調の生徒への対応に対する担任や養護教諭の負担軽減

RAMPS 導入するにあたっての準備

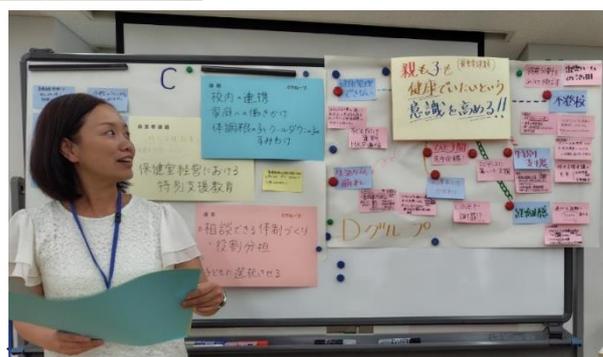
- ・教職員の理解・協力が不可欠なため、年度初めに教職員向けの研修会を実施
- ・生徒、保護者向けのお知らせ配布
- ・ID の配布

その後、村上先生の学校での事例紹介がありました。希死念慮のリスクが高い生徒に対し、RAMPS のアセスメントを基に、生徒の様子を保護者へ伝えるときの補助材料となり、その後の対応に役立った事例や外科的理由で来室した生徒に来室記録として RAMPS をしようしたところ、相談する人がいないことが分かり、アセスメント結果を担任と共有することができた事例などを紹介いただきました。



次に、「この夏、健康課題を解決しよう」の演題で 4 グループに分かれて、ワークを行いました。本研究会に所属する校長・副校長がファシリテーターとなり、現在抱えている課題から最重要課題を導き出し、具体的な方策を考えていきました。

最後に発表の場を設け、全体で共有することができました。



島

論としての資質向上につながる実践紹介でした。

グループワークは、普段一人職として活動している養護教諭が養護教諭の先輩でもある校長先生・副校長先生と意見を交わし、具体的な方策まで導いていただくことで、2学期への活力となりました。

参加して下さった皆様、誠にありがとうございました。事務局一同感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。